

# 超小型モビリティ導入事例紹介

---

令和3年4月27日

## 年間販売台数



トヨタ車体 新型コムス (第1回会議より引用)

- ◆ 2012年～2020年の9年間で約9,000台。
- ◆ 購入者の内訳は法人：個人で8：2程度。
- ※2020年度はCEV補助金再開（20万円補助）により、法人、個人とも受注が伸びている。

## 法人の購買傾向

- ◆ 宅配ドライバーは、高校生バイトから主婦、高齢者へシフトしており、三輪バイクからコムスへシフトする事例もみられる。
- ◆ コロナ禍において食事の宅配ニーズも増加。

## 個人の購買傾向

- ◆ 30代や女性をターゲットに車両開発したが、9割は50歳以上の男性が購入している。

## 訪問診療・介護での導入

- ◆ 全国で約400台導入。
- ◆ 女性1人での移動、軒先まで車両を入れる点で需要にマッチしている。
- ◆ 駐車制度が課題。※



訪問診療等における導入事例（トヨタ車体HPより引用）

※【参考】訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可事務の簡素合理化について（警察庁通達）

### ◆ 背景

高齢化社会の進展に伴い、在宅での医療、介護のサービスが24時間態勢で実施されるなど、近年、訪問診療等の社会的な重要性が増す中、訪問診療等に使用する車両の駐車許可事務については、これまで以上にきめ細かな対応が求められている。

このような現状を踏まえ、地域住民の意見や地域交通の実態に応じ、駐車許可事務の更なる合理化による申請者の負担軽減に努める。

### 訪問診療等に使用する車両に係る駐車許可についてのご案内

訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションや訪問介護等に使用する車両が、訪問先に駐車場所がないために駐車禁止場所に駐車せざるを得ない場合、状況に応じて警察署長の駐車許可を受けることが可能となっております。

また、こうした業務の実情に鑑み、1つの駐車許可で、一定の期間、複数の場所に対応できるよう、手続の簡素化、柔軟化を図り、申請者の負担軽減に努めております。

なお、駐車許可は、都道府県警察及び警察署ごとに、地域住民等の意見要望や地域の交通実態等に応じて行っているものであり、必ずしも全ての場合に許可が行われるわけではありません。

詳しくは、管轄する都道府県警察本部又は警察署までお問合せください。

## コムスを選択する理由

- ◆ 法人、個人ともに乗用車・コムスと複数台所有し、ケースで使い分けている。
- ◆ 訪問診療であれば軽自動車を残しつつ、一部を軽自動車からコムスに切り替えているケースもある。
- ◆ 女性の労働環境改善や安全性の確保（事故防止）の観点で、バイクからコムスへの切り替えもある。



名古屋銀行における導入事例（トヨタ車体HPより引用）

## コムスに対するユーザーからの改善要望

- ◆ ドアについてはジッパーで開けにくい等の意見もあり、対策を考えている。
- ◆ 暑さ寒さ対策の要望も多くあり、市場で受け入れられる価格と機能について調査検討を進めている。



ジッパータイプのドア（トヨタ車体HPより引用）

## ガイドブックに盛り込まれる先行導入事例について

- ◆（現在掲載されている）セブンイレブンは、よく使われる地域とそうでない地域がはっきり分かれてきた。地域によっては、店主が地元のお客さんとの距離感が近く、地元の見回りの役割としても活躍している。
- ◆（改訂にあたり）信金・金融機関での営業での事例等を、労働環境改善（ヘルメット不要、全天候性でも化粧も崩れず）の点は盛り込むとよいのではないか。

## その他

- ◆大規模施設（製鉄所など）への導入実績も増えており、市街地を走っているのを見た金融機関からも問い合わせがあり、相乗効果となっているケースもある。



## 2. 豊田市旭地区の導入事例

### 用途

中山間地域住民による地域内移動に利用(日常利用)

### 利用車両

大半は1人乗りコムス。2人乗り改造コムスが1両。

### 利用地域

豊田市旭地区

### 利用者層

中山間地域内住民

### 保管場所・充電設備

使用者宅および地域拠点

### 実施機関

平成28年当初は名古屋大学&トヨタモビリティ基金による「あすけあいプロジェクト」。平成31年度からは豊田市&名古屋大学等による「里モビLIFEプロジェクト推進協議会」。名古屋大学COIプロジェクトとして共同して進める一方で、令和3年度から「一般社団法人里モビニティ(令和2年12月14日設立)」が地域活動を担う。

### 事業形態

有償リース  
(「一般社団法人里モビニティ」による有償リースで事業を運用。)



利用車両

# (参考) 里モビ 利用範囲と用途

**【1人乗り】**

「ちよい乗り」してサロン会へ楽しい!

狭い所まで入れて薪をたくさん載せられる!

車は体の一部!

自家野菜の出荷!

ヘビーユース!

**写真1. 見える化**

**【2人乗り】**

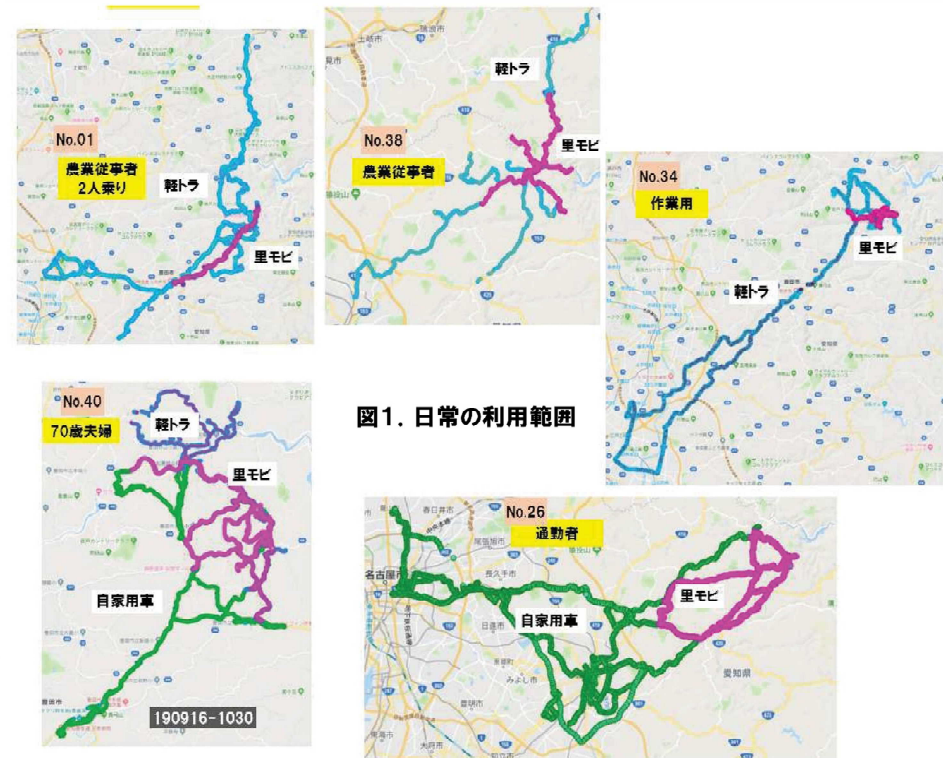
子どもの送迎

ゴミ出し 1km スーパー G.S. 10km  
学校 2km

子どもの送迎、スーパーも!

2人乗りで山に畑に、通勤にも!

ご夫婦、買い物、病院、趣味で!  
(自家用車の廃車)



利用車両：大半は1人乗りコムス。2人乗り改造コムスが1両。  
 利用地域：コムスの利用地域は、自家用車や軽トラに比べ利用地域は狭い。

## 2. 豊田市旭地区の導入事例

### 導入背景

中山間地域において、自家用車での移動は不可欠である。高齢者が自分の意思で自由に移動できることで、生涯のQOLを高めるとともに、向き合い続ける地域コミュニティ活動により地域社会の持続性を高め、乗用車から超小型モビリティへ乗り継ぐことで自立移動の延伸、スローライフを実践できるカーボンニュートラルな中山間地の創出。

### 地域内交通課題

高齢化が進む中山間地域では、公共交通サービスの維持が困難。一方で生活圏内の移動距離が数キロ～十数キロであり、シニアカー等の手段では移動困難。また、自宅から最寄りのガソリンスタンドへの往復で12～15キロの距離となり、自宅で充電できる超小型モビリティが適している。

### 導入目的

高齢者を中心に中山間地域で暮らす人々に対し、超小型モビリティを年契約でリースすることで、自立した安心・安全な移動を支援する。合わせて、車両をリースするのみならず、地域コミュニティ活動により、QOLの向上、持続可能な地域社会を実現する。

### 実施体制と役割分担

一般社団法人里モビリティが、超小型モビリティを導入。希望する地域住民は6,600円／月（令和3年4月1日現在）でリースにより、利用が可能となる。

### 安全対策

- ・貸し出し時や定期的に利用者の運転診断を実施、コミュニティ活動時等に定期メンテナンスも実施し、安心・安全を確保する。
- ・コムスはキャンバス生地でジッパー開閉のドアがメーカーオプションとして取り付け可能だが、乗降時にキャンバス生地に足が引っかかる恐れがあるため、ヒンジ開閉のハードなドアを取り付けている。
- ・低速化により加害性、被害性ともに低下することから、一部車両について最高速30km/hとして実証を続けている。



## 2. 豊田市旭地区の導入事例

### 事業における工夫

- ・利用期間が長くない高齢者が超小型モビリティを自分の車として保有するとなるとハードルは高く、月単位でのリースとすることでハードルを下げるとともに、リースアップした車両は、また別の利用者にリースすることが可能となる。
- ・豊田市企業版ふるさと納税の活用や、他地域でのイベント時の車両貸し出しにより収益を得て、超小型モビリティ導入やドア取り付けなどのイニシャルコスト、メンテナンスや地域コミュニティ活動などのランニングコストに当てている。

### 実績・効果

延べ50名の高齢者が、5年で約10万kmを利用。これまで公道での交通事故はなし。

### 車の保有状況

大半世帯では自家用車を保有している。現状の自家用車からシニアカーまでの間の自らの移動への利用を想定。なお、唯一の2人乗り超小型モビリティ利用者は、自家用車を保有していない。

### よいと思う点

夏場にはシニアカーでは数キロの移動でも困難(現に熱中症になった)なのに比べ、超小型モビリティでは快適な移動が可能。  
低速かつ中山間に合わせた車両への改造を行い、安全への配慮を行うとともに自宅での充電が可能であり、緊急時の給電システム、防災面でも活用が可能。

### その他の移動手段との使い分け

- ・知人宅の訪問、寄り合い等への移動時には、「くらしの足」として超小型モビリティを利用。十キロ以上離れた地点への移動や、送迎等では自家用車利用するなど、個人のニーズに合わせた使い分けがなされる。
- ・なお、実際の超小型モビリティの利用者からは、旭地区から十キロ以上離れた足助支所への移動に利用することもあるが、国道は利用せず交通量の少ない県道を利用しているとの意見もあった。

# (参考) 里モビの移動促進効果

## <利用前後>

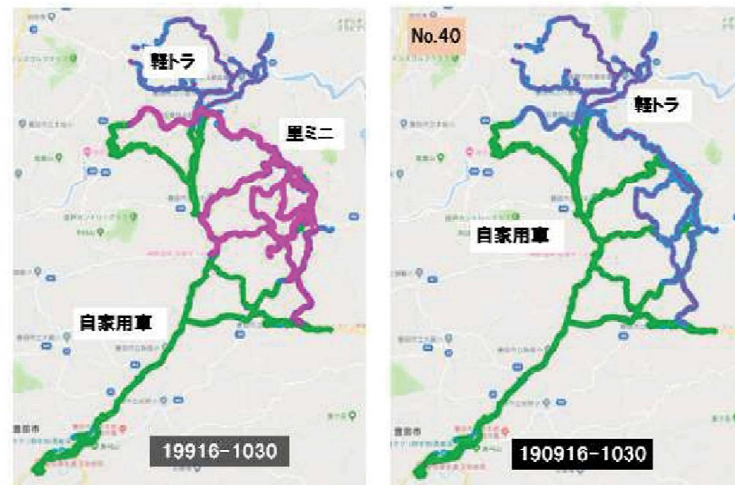
表1. 里モビ利用前後における  
総走行距離・trip数変化

(8/5-26)	自家用	軽トラ	里モビ	
総trip数	106	112		218 trip
走行距離	312	172		483 km

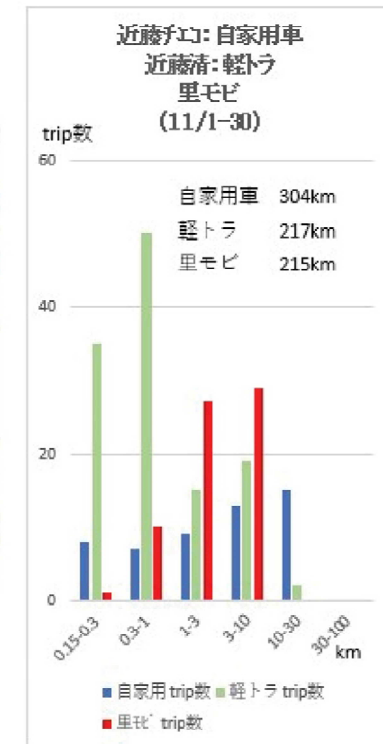
  

(10/7-28)	自家用	軽トラ	里モビ	
総trip数	131	96	60	287 trip
走行距離	310	126	134	570 km

## <利用後(使い分け)>



## <使い分け>



里モビ（コムス）を利用することで、総trip数、走行距離は増加する傾向にある。

## (参考) 普段利用する乗用車と里モビの利用頻度

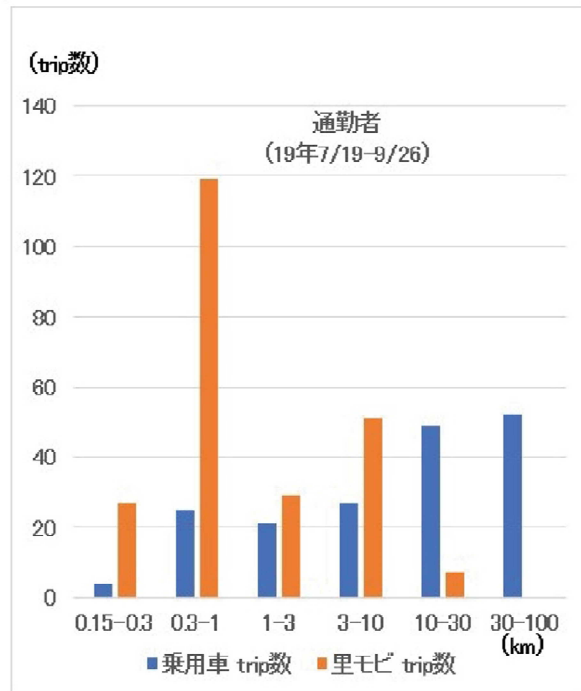


図4. 自家用車と超小型EVの利用頻度

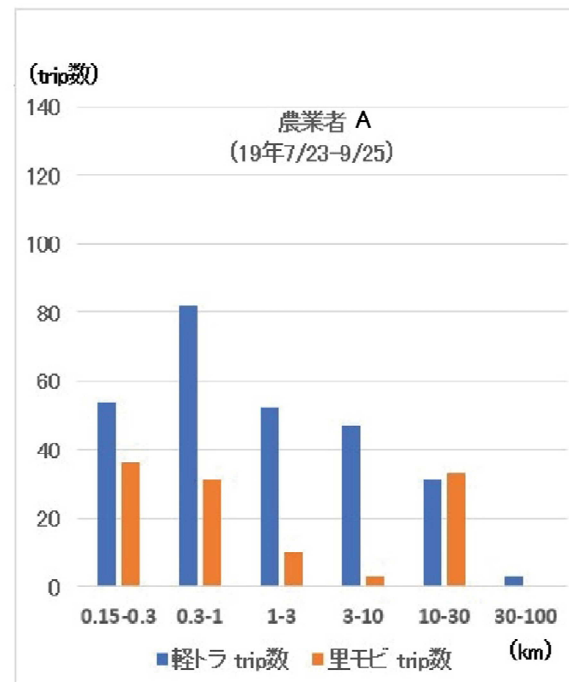


図5. 軽トラと超小型EVの利用頻度 (農業者A)

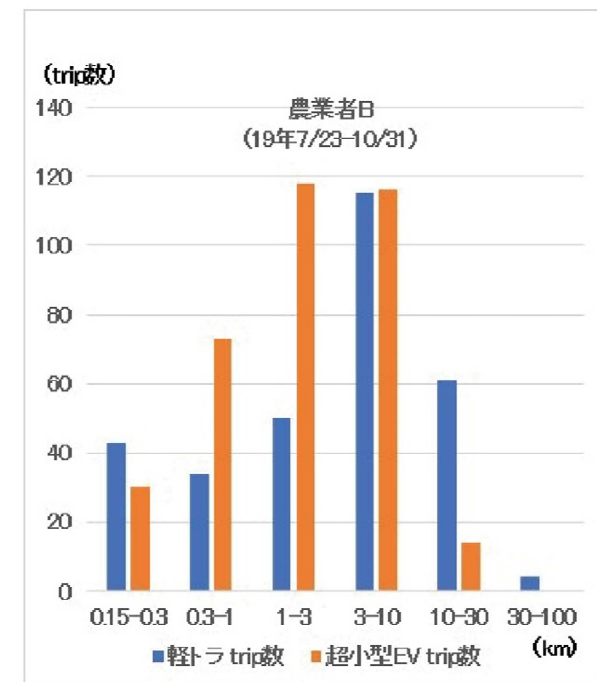


図6. 軽トラと超小型EVの利用頻度 (農業者B)

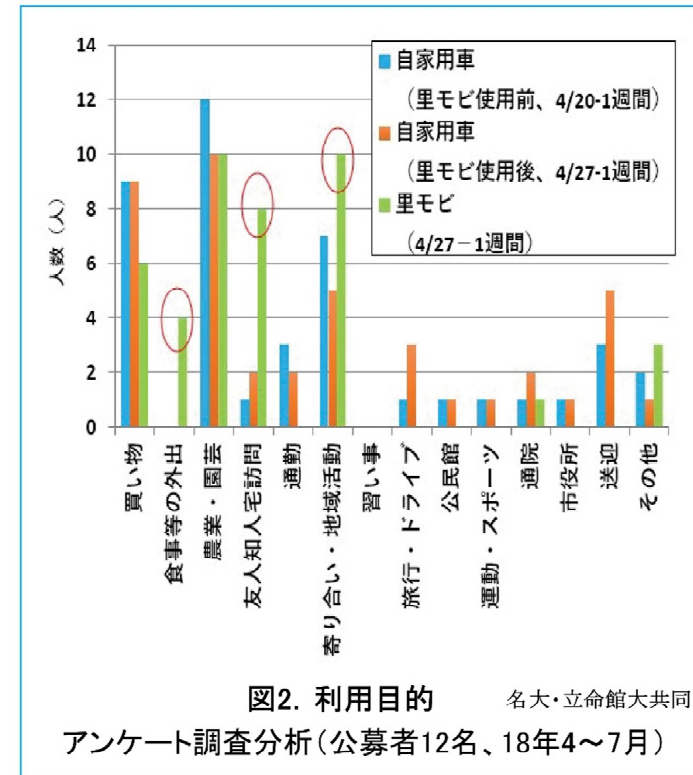
通勤者、農業者ともに3-10kmの移動では里モビ（コムス）の利用頻度が高い傾向にある。

# (参考) 里モビの利用目的

【利用範囲】



移動目的による  
明確な使い分け



知人宅の訪問、寄り合いなど「**くらしの足**」

里モビ（コムス）の利用範囲は30km前後。知人宅の訪問や寄り合いなど「**くらしの足**」として利用されている。



### 3. 高松市の導入事例

<b>用途</b>	高松市内の訪問医療等に利用(業務利用)	
<b>利用車両</b>	New Mobility Concept 3台。	
<b>利用地域</b>	高松市内全域(塩江町、牟礼町を除く。)	<b>利用者層</b> 看護師、理学療法士等
<b>保管場所・充電設備</b>	病院内の駐車スペース。充電設備を4ヶ所設置。	
<b>実施機関</b>	一般財団法人 三宅医学研究所 附属三宅リハビリテーション病院	
<b>事業形態</b>	有償リース (「日産自動車」による有償リースで事業を運用。)	



訪問診療の導入事例 (三宅リハビリテーションHPより引用)



保管場所・充電設備

### 3. 高松市の導入事例

#### 導入背景

高松市内住民の訪問医療等を行うための移動において、道幅の狭い道路の通行、訪問先における駐車スペースの確保をしなければならなかったため、平成26年から、環境負荷を低減し、かつ、年齢性別を問わず運転しやすい超小型モビリティを導入した。

#### 安全対策

初めて超小型モビリティを利用する運転者には、安全運転管理者が運転者の遵守事項、事故防止策、不具合発生時の対応、点検・整備に関する実施方法等を教育する。また、夜間における超小型モビリティでの走行はしないようにしている。

#### 事業における工夫

- ・訪問先の移動距離、道幅、駐車スペースによって、訪問医療に利用する超小型モビリティ(3台)、軽自動車(4台)、原付三輪スクーター(1台)を使い分けている。
- ・1日の訪問場所や訪問件数にあわせて、看護師や理学療法士等の訪問先の運行経路を管理している。
- ・超小型モビリティは、現時点では先進的な珍しい車両であるため、車体に病院名を表示し、宣伝カーとしての効果を狙っている。



庭先に駐車する事例



道幅の狭い道路通行する事例



### 3. 高松市の導入事例

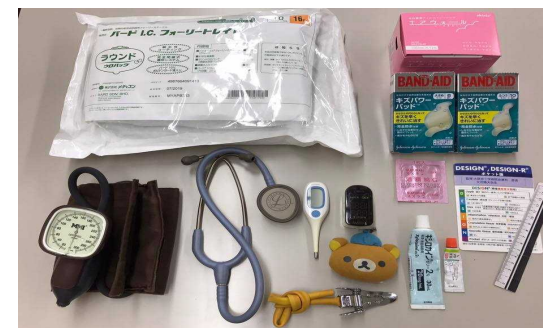
- 実績・効果** 1台当たりの走行距離は1,500km~2,000km/年。1日当たりの最大走行距離は50km前後。点検費用や燃料費がガソリン車に比べて低い。これまでに交通事故はなし。
- ・訪問してのサービス提供中(概ね40分間)に、庭先のちょっとしたスペースに駐車が可能。

#### 超小型モビリティに不足していると思う機能や設備

- ・年間を通じて超小型モビリティを使用するため、エアコンが必要。雨風をしのぐためのドアが必要。
- ・2人乗りではあるが、運転者1人で利用するケースがほとんどある。訪問サービス提供時に必要となるカルテや医療機器を運ぶため、荷物を置く専用スペースが望ましい。
- ・ドアロックが無い場合、駐車許可書が必要な場所への使用ができない(訪問先の住所、名前が記載されているため、個人情報の流出のおそれがある)。当該場所への移動には軽自動車を使用している。

#### 駐車許可の手続きについて

- ・運行経路毎・車両毎に申請手続きが必要であり手間がかかる。
- ・申請手数料は無料。
- ・申請すれば当日中に駐車許可書が発行される。



訪問医療の際に必要なもの